

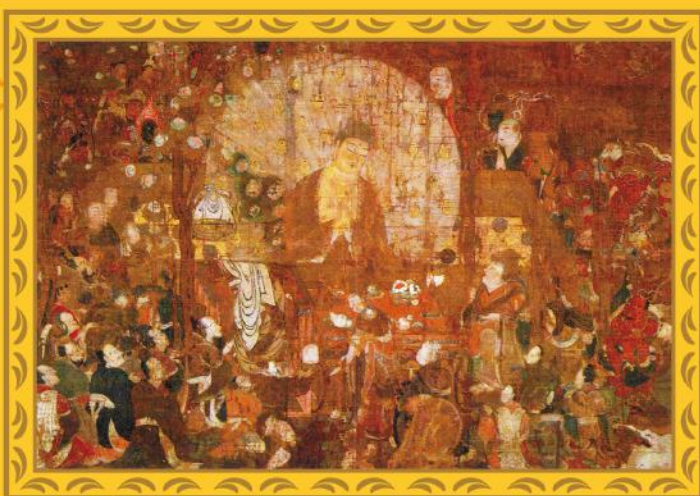


奈良女子大学 教授・文学博士 加須屋 誠

国宝・釈迦金棺出現図

絵で学ぶほとけの教え

釈迦再生説法の  
場面を描いた  
『釈迦金棺出現図』を  
イラストで分かりやすく  
解説!



目次

7	なにが描かれているの⑤   会衆	54
6	なにが描かれているの④   供物を捧げる純陀	46
5	なにが描かれているの③   仏衣と仏鉢	38
4	なにが描かれているの②   摩耶夫人	32
3	なにが描かれているの①   釈迦如来	26
2	どこから伝わったの？	16
1	釈迦金棺出現図とは？	10
0	『釈迦金棺出現図』・構成尊像略図	6



△監修者▽  
**中野 玄三** (なかの げんぞう)

元京都嵯峨芸術大学学長・京都国立博物館名誉館員。

△解説者▽

**加須屋 誠** (かすや まこと)

一九六〇年東京生まれ。

一九八四年京都大学卒業。

一九九〇年京都大学大学院文学研究科

美学美術史専攻博士課程単位取得退学。

文学博士。日本学術振興会特別研究員、

京都大学助手、帝塚山学院大学専任講師を経て、

奈良女子大学教授(現職)。

著書に

『仏教説話画の構造と機能―此岸と彼岸のイコノロジー―』

(単著、中央公論美術出版、二〇〇三年)

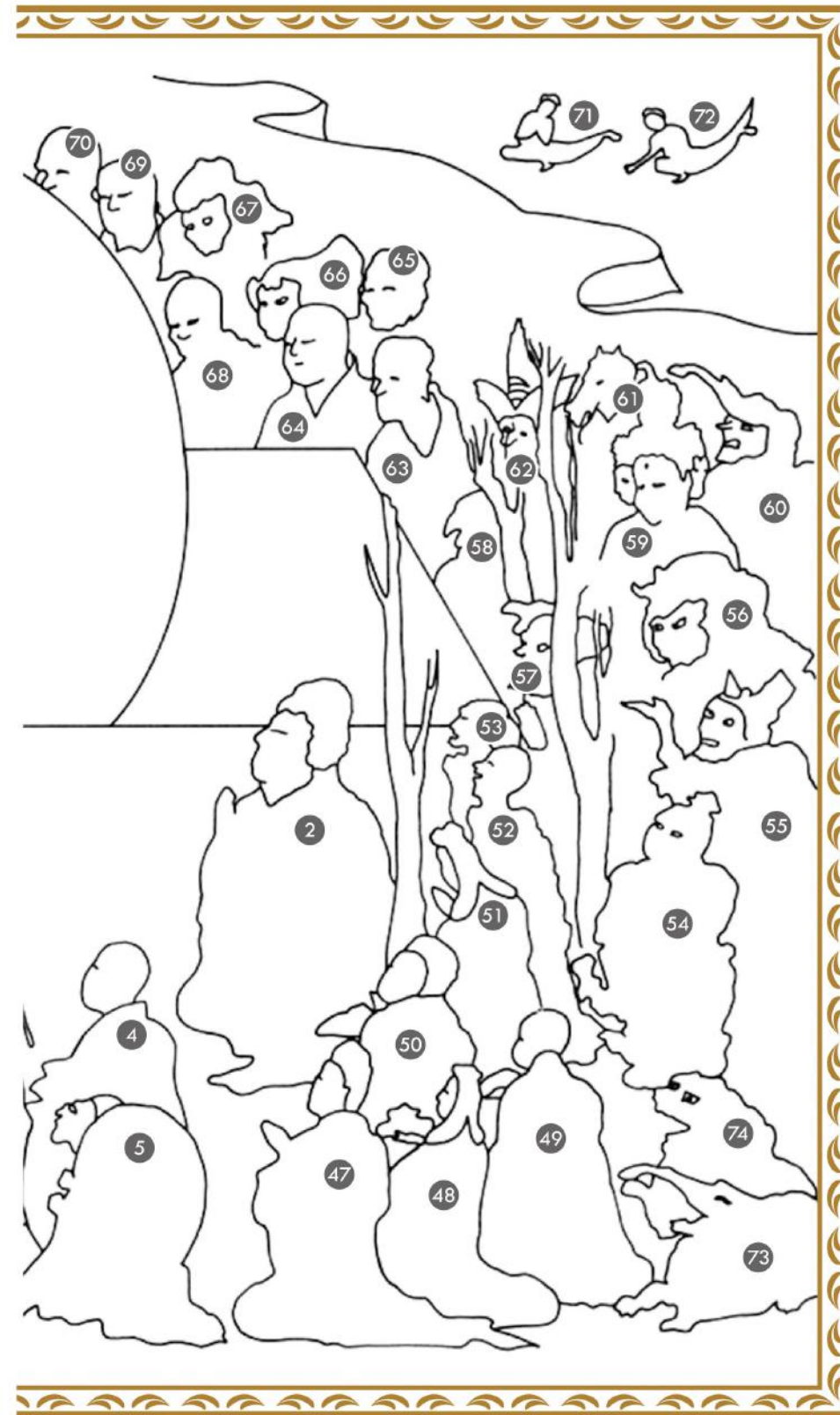
『国宝六道絵』(共著、中央公論美術出版、二〇〇七年)

『方法としての仏教文化史―ヒト・モノ・イメージの歴史学―』

(共著、勉誠出版、二〇一〇年)

『生老病死の図像学―仏教説話画を読む―』

(単著、筑摩書房、二〇一〇年)ほか。



# 釈迦金棺出現図 構成尊像略図

『釈迦金棺出現図』(便利堂一九九二年)  
掲載図を参考に作成

- 1 釈迦
- 2 摩耶夫人
- 3 立像人物
- 4 阿難
- 5 跋陀羅外道
- 6 純陀
- 7 純陀家人
- 8 俗形者
- 9 俗形者
- 10 護世長者
- 11 月光長者
- 12 護法長者
- 13 妙力王
- 14 優婆塞陀比丘尼

- 48 □夫人
- 49 □夫人
- 50 妙行天
- 51 切利天
- 52 三界妙夫人
- 53 安忍仙人
- 54 横向きの老仙人
- 55 金剛力士
- 56 難陀龍王
- 57 □達夜叉
- 58 高鼻の天部形
- 59 迦楼羅
- 60 阿修羅
- 61 大力夜神
- 62 健達婆
- 63 摩睺羅
- 64 阿泥婁豆
- 65 難陀
- 66 老僧風の仏弟子
- 67 多聞天
- 68 增長天
- 69 離婆多
- 70 羅睺羅
- 71 周陀尊者
- 72 左の飛天
- 73 右の飛天
- 74 象
- 75 獅子
- 76 猿
- 77 小鳥
- 78 猿の後ろの鳥
- 79 鷲頭
- 80 龍頭

- 15 海意比丘尼
- 16 俗形者
- 17 者婆大臣
- 18 廣目天
- 19 天部
- 20 威徳無垢王
- 21 善徳居士
- 22 善現尊者
- 23 高貴徳王菩薩
- 24 菩薩
- 25 獅子孔菩薩
- 26 海徳井
- 27 堅手夜叉
- 28 幞頭をかぶった人物
- 29 頭巾をかぶった人物
- 30 藜林神
- 31 嘴のある天部形
- 32 巖谷神
- 33 赤ら顔の天部形
- 34 伊羅鉢龍神
- 35 蛇を戴く天部形
- 36 □堤尊者
- 37 童女の天部形
- 38 監縛祀女
- 39 好行天
- 40 頭上に一角を持つ天部形
- 41 赤ら顔の天部形
- 42 水雷神
- 43 緊那羅神
- 44 青面夜叉
- 45 迦羅夜叉
- 46 青い鬼面の天部形
- 47 □徳優婆夷

## 釈迦金棺出現図 とは？

釈迦は紀元前五世紀頃、カピラ城（現在のネパール地方にあったという小国）城主の**浄飯王**の子として生誕しました。母、摩耶夫人は釈迦の生後七日で死去。**切利天**に転生したといわれています。

## 仏の再生を ドラマチックに描いた 平安仏画！

幼少時より聡明であった釈迦は、将来は父を継いで城主となることが約束されていましたが、それにもかかわらず、二十九歳で出家。苦行を経てのち菩提樹の下で瞑想に耽り、ついに悟りを開きました。三十五歳のことです。そののち**鹿野園**における初めての説法を契機として、人々に自らが到達した悟りについて説いてまわりました。その教えに感銘を受けて、多くの人たちが釈迦に帰依したという。これが仏教の始まりです。



けれども、実はまだこの続きがあるのです。

切利天にいた摩耶夫人は「釈迦が入滅する」との知らせを受けて、急ぎ下界へと向かいました。せめて一目でも息子に会い、一言でもことばを交わしたいと願ったからです。しかし、残念ながらあと少しのところ、間に合いませんでした。ようやく沙羅双樹にたどり着いたとき、釈迦の身体はすでに金棺に納められていました。悲嘆のあまり、地に伏して泣き叫ぶ摩耶夫人。するとどうでしょう、涅槃に入ったはずの釈迦は棺から身を起こし、光に包まれながら、母に向かい次のように語りかけたといわれています。

釈迦は八十歳にして病に倒れました。**純陀**が捧げた供物による、食中毒が原因であったと伝えられています。クシナガラ（現在のインドのウツタル・プラデーシュ州東端のカシア付近）において、沙羅双樹の下で弟子たちに見守られながら入滅しました。

よく知られた釈迦の生涯は、ここまでです。



- ① 浄飯王…シャカ族の王。
- ② 切利天…仏教の世界観に現れる天界の一種。
- ③ 鹿野園…中インドの波羅奈国にあった林園。
- ④ 純陀…釈迦に最後の供養を捧げた人。